

「学生による授業評価」のまとめ 2005 年度秋学期

刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長
宇田 光

秋学期の「学生による授業評価」（以下単に授業評価）は、2005 年 12 月から 2006 年 1 月にかけて実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに、厚く御礼申し上げます。

授業評価が本学で開始された 1999 年秋学期以降今日まで、方式が少しずつ変更されてきました。2005 年度は春学期・秋学期ともに、種別、専任・非常勤にかかわらず、1 教員 1 科目を選んで実施する方式が採用されました。そして秋学期も春学期と同様、ほぼ 100% の実施率を達成することができました。教員一人ひとりが学生のみなさんの声に耳を傾けながら、常により良い授業を求めていく。こうした姿勢を忘れずに努力を重ねていくことが、今後でも不可欠です。趣旨をご理解いただきまして、引き続き学生のみなさんと教員のみなさんのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、授業評価の結果は毎回、「『学生による授業評価』のまとめ」冊子に記載されて、各教員に配布されています。また、両キャンパスの教務・学生関係部署窓口、図書館にそれぞれ冊子がそなえられ、学生による閲覧も可能となっています。さらに、授業評価の概要については Web ページ上で開示しています。

1 授業評価の実施方法

対象科目 全教員それぞれの担当科目のうち一科目が選ばれ、実施されました。両キャンパス総計で 501 科目が対象となりました。

質問紙 設問 1 から 4 までは、従来通り学生の授業参加（出席、予習復習など）を問う内容です。設問 5 以降とは性質が異なりますので、平均値は分けて算出しています。

これら 19 の設問に対して、次の 5 段階評定尺度を用いて評定してもらいました。「はい（5 点）」、「どちらかと言えばはい（4 点）」、「どちらと

も言えない」(3点)、「どちらかと言えばいいえ(2点)」、「いいえ(1点)」。(なお便宜上、集計結果は、「各設問に対する評定値の算術平均」で表現しています。)

また、裏面は、次のa～dに関して問う自由記述欄となっています。

- a この授業の良かった点、評価できること、b この授業の改善すべき点
- c 授業環境(照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など)について、
- d その他

実施・回収手順 公平性・匿名性の観点から、教員は受講生の代表に実施を依頼。その代表者が回収し、まとめて事務担当部署に提出しました。

作業手順 2005年12月、2006年1月実施 集計作業 教員へ
集計結果を通知(1月) 教員から報告書提出(2月、3月) FD委員会
会で結果の分析・検討(4月) 「まとめ」報告書の執筆・発行(5月)

2 集計結果の概要(2006年4月27日現在)

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

実施率 名古屋 98.72%(386科目)、瀬戸 100.0%(110科目)

報告書提出率 名古屋 97.44%、瀬戸 100.00%

各設問評定値の平均

iii ページの図をご覧ください。各設問項目の評定平均値を、キャンパスごとに図示しています。今回の結果を、春学期と比べて見ることができます。

1番から19番の項目まで下から順に並べてあります。全体としてどの項目が高く、どの項目が低いかを知るには便利です。

実際の数字は、v ページの各種集計表のほうをご覧ください。

全項目の平均値が4.09(名古屋4.09、瀬戸4.06)、項目05から19までの平均値が4.20(名古屋4.21、瀬戸4.16)となっています。また、設問19(全体としての満足度)の平均値は、4.22(名古屋4.24、瀬戸4.14)となっています。「どちらかと言えば良い」レベルであり、春学期(4.09)よりやや高くなっています。

次に、各キャンパス、「開講主体」(学部、学科等)、読み取り枚数ごとにながめると、たとえば、瀬戸キャンパスの語学科目が4.43と健闘していま

す。一方、名古屋キャンパスでも、人文学部や外国語学部では、すべての学科が揃って4点以上の平均値を出しています。また、読み取り枚数別では今回、多人数（80枚以上）で、得点が低い傾向が出ているようです。

これらの数字は、様々な条件により影響されるものであり、小さな差異にとられる必要はないと言えます。とはいえ、各学部、学科において、分析のうえ改善に生かしてくださるようお願いいたします。

さらに設問ごとに見てみます。特に高い数値となっているものは、設問9（教員の声、音声機器の音）の4.55、設問16（教員の姿勢に誠実さ・真剣さ）の4.52、設問5（開始・終了時刻）の4.50などです。春学期に続いて、授業に取り組む教員の姿勢に対して比較的良い数字が出ています。学生から見て、南山大学教員の多くが高い意識をもって教育にあたっておられる。この様子が読み取れることは、嬉しい限りです。

一方、設問3（予習・復習）が3.02で、全設問中で最も低い値です。設問4（事前に履修案内を十分に読んだか）も3.35と低調です。予習や復習の指導に関しては、引き続き課題が残ります。

3 個別教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、個別教員ごとの結果です。本冊子では、原則として1頁に2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

教員名、科目名・科目コード、登録人数、休講回数など
レーダーチャート2枚

右の図がアンケート提出者全員で集計した結果です。一方、左の図は項目1から4の評定平均値が3.0以上の学生（つまり積極的な態度で授業に臨んだと認められる学生）だけに絞って集計した結果です。

「アンケート結果を踏まえた授業評価」：各教員が今回の結果を踏まえて書いた報告です。自由記述も参照して、この報告を執筆していただきました。（自由記述は膨大な量になりますので、本冊子には記載されていません。）

4 「学内 GP」を広げる

ところで、FD委員会では3月に、FD委員の教員のみなさんにお集まりいただき、会合をもちました。南山学園研修センターにおいて、長時間にわ

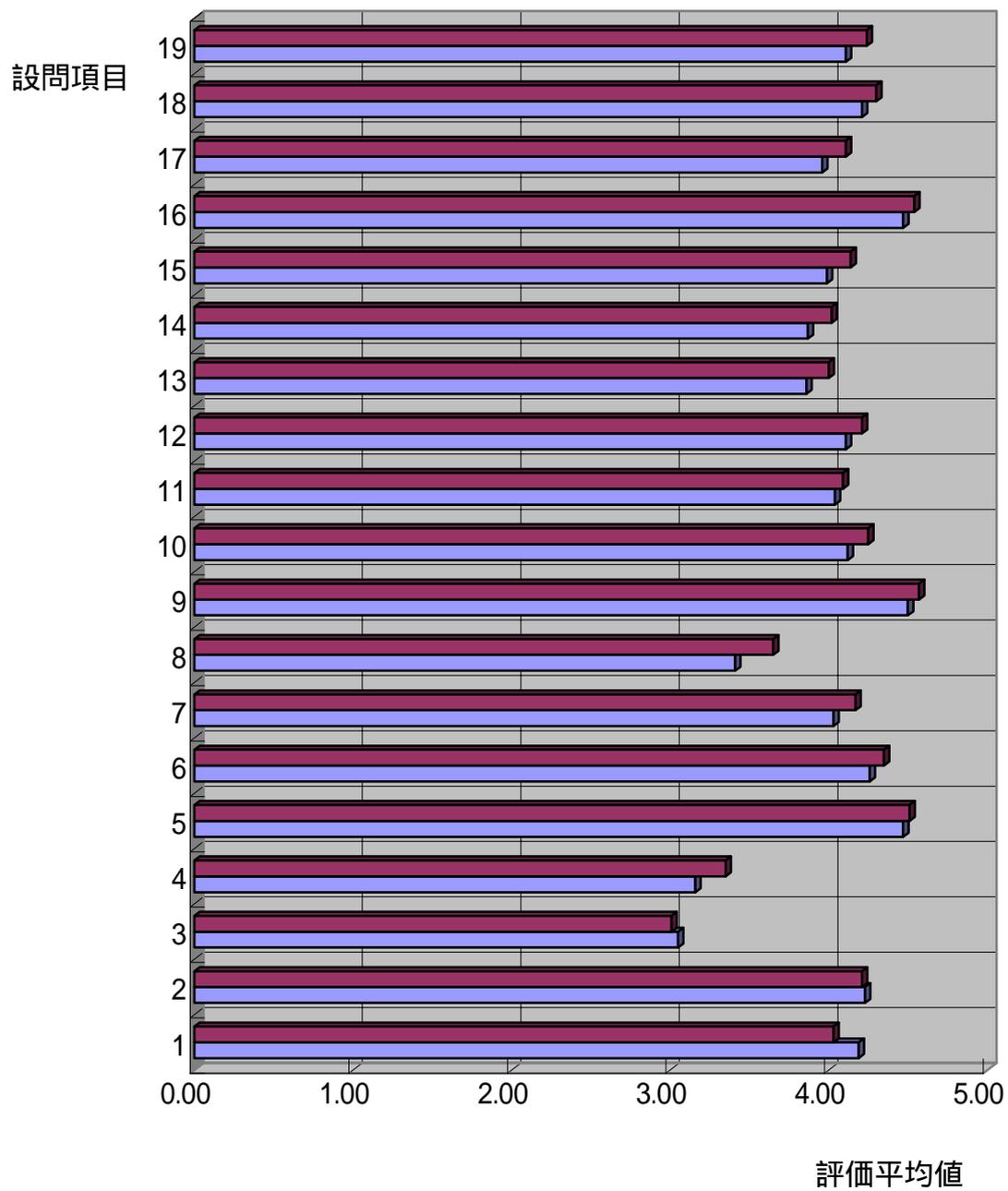
たってFDのあり方を協議しました。その中で、一つ痛感したことがありました。それは、意欲的な教育実践が、学内に既に多数隠れている。ところが学部の壁に阻まれて、教員同士が互いに知らずにいるのです。学内に既に「GP（優れた教育実践例）」が多数存在している。これを広めていくことが大切です。

より有用な授業評価のあり方を、今後も模索していきたいと考えております。授業評価はやりっぱなしではなく、結果を今後に活かしていくことが必要です。学生のみなさんと教員のみなさんの、引き続いてのご協力をお願いします。

以上

名古屋キャンパス開講科目

■ 2005年度春学期 ■ 2005年度秋学期



瀬戸キャンパス開講科目

■ 2005年度春学期 ■ 2005年度秋学期

